

6 地域農業を守るため個別経営体が経営規模縮小農家の受け皿として農地集積

[五所川原市高野地区]

1 地区の概要

水田は30a区画に整備。さらに、平成23年度から平成28年度まで「経営体育成基盤事業」で用排水路と農道を再整備し担い手への面的集積を目指す。

2 個人経営による農地集積の取組

個人経営の認定農業者でもあるA氏は、平成10年代以降、大型機械の導入に踏切り規模拡大を目指し、農地を貸す人がいれば遠くの集落からでも借り入れし面積を増やしてきたものの、集積は思うように進まず滞る。

3 農地中間管理事業利用のきっかけと着実な農地集積

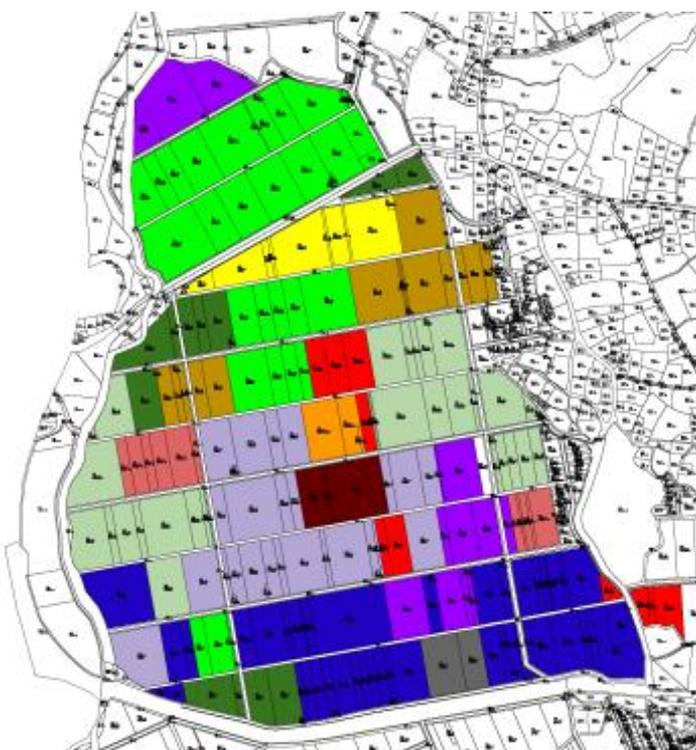
- (1) 後継者が出来たことで、担い手として地域の農業を守らなくてはならないという思いが強まる。また、農地中間管理事業により地元からの出し手が増え、出し手と受け手がより安心して貸借を進められるということに着眼。隣接地や近場の農地を借りることで経費節減の進展。
- (2) その結果、借受希望者として応募し、経営規模縮小農家の受け皿としての意識を高め、平成26年度は3.7ha（うち機構から2.9ha）、平成27年度は8.8ha（うち機構から3.6ha）を借り入れし、着実に農地を集積し規模拡大。

4 A氏への農地集積

区分	地区	A氏の経営内容
農家数	116戸	主食用米、飼料米、大豆等。30.9haのうち借入地16.8ha（内機構から6.5ha）
農地面積	102ha	

5 今後の取組

- (1) 経営の安定を図るために法人化を検討。
- (2) A氏の他の経営農地がある「持子沢地区（高野地区の近隣）」は、農地を集積・集約し担い手の育成を強力に支援する県の「地域農業構造改革先進モデル育成事業」が展開中。（将来の農地利用像=下図のとおり）
- (3) その事業で持子沢地区でも農地を集積予定。



持子沢地区の将来の農地利用案
（色分けは将来、担い手が利用する農地利用案）



持子沢地区での話し合い